

『月刊生徒指導』にて本校の教育活動が紹介されました。

武笠和夫の全国生徒指導実践

31

愛知県 愛知県立

松平高等学校

高等学校

校長 渡辺 昭
所在地 〒444-2204
愛知県豊田市鶴ヶ瀬町鶴山
1番地
電話番号 0565-58-1144
生徒数 593名
http://www.matsudaira-h.alchi-c.ed.jp
(2015年5月1日現在)



76

はじめに

本校は、1948年に、加茂高校の分校として、松平中学校の敷地を間借りし、農業科と家庭科合わせて1クラスで開校した。1969年に独立し、翌年に鶴ヶ瀬台に全面移転して現在に至る。さらに、1995年の学科改編で家庭科は「生活情報科」として生まれ、現在、普通科との2科体制になった。

校章の由来は、徳川家の祖先、松平氏の発祥の地が松平であるため、教員の三ツ葉葵にちなみ、これを白に「高」を中心に置く、この家紋の「ふたはあおい」は、同校のある県立加茂公園の高塚、六所山麓に生育する。毎年、新入生全員は伝統的な「五つの誓い」

生徒指導の基本的な考え方

校訓は「努力・忍耐・節度」で、教育目標は「校訓のもとに知・徳・体の調和が取れた人格の完成を目指す、国家・社会の発展に貢献できる有為な国民を育成する」である。生徒指導の目標は、「①高校生らしい身だしなみを身につけさせ、落ち着いて学校生活に取り組む生徒の育成、②規律ある基本的生

実践事例

(1) 意思統一した段階的指導
全員(担任・副担任・学年団等)で連携指導、意思統一した段階的指導を実施する。問題発生時には、複数の教員で対応し、クライシスマネジメントの観点から先回りの指導

し、年間の指導回数に応じて6段階指導を行う。学年主任は指導カードの記録をまとめ、パソコン上の共有フォルダに指導内容を記録し生徒情報の共有を図る。

(3) 地域の結びつきを大切にした活動
10年ほど前から、希望生徒と地元の松平こども園の5歳児たちが川遊びで交流を深めている。また、近所の里山で採れた竹から竹炭をつくり、それを加工した作品を文化祭や地元の松平交流館等で販売する。ほかに、小学生を対象にした松平町のキャンプで、手伝いとして参加する和太鼓部が演奏する。

(4) 身だしなみ指導

月例指導は、学年団の教員全員で実施する。不合格者は、翌日より朝8、10までに登校し事後指導を行い、合格するまで行われる。通常指導では、校門指導を毎日2名の教員で、昇降口でも各学年1〜2名の教員で行う。ゼロのつく目を、身だしなみ指導ゼロの日と定め、HR・授業の開始時等に確認し授業を始める。教員間で指導の差がないように、「生徒指導の手引き(教員用マニュアル)」、「高校生活の友(新入生オリエンテーション冊子)」、「イラスト(クラス掲示用)」等を作成し指導に当たる。

筆者の視点

教育再生実行会議の第八次提言では、「教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について」の提言がなされた。その中で、学校が地域社会の核になることを強調されている。学校が人と人をつなぎ、さまざまな課題へ対応し、地方創生の核となる役割に意義がある。学校と地域が連携・協働し、児童生徒が抱える課題を地域ぐるみで解決する体制の構築と、学校施設の機能高める条件整備の進展が見込める。同校の地域密着型の学校を目指す今後の動向に期待したい。

武笠和夫の全国生徒指導実践



おはよう声掛け運動

事前指導にも注力する。問題に対しては、素早い対応と「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」を徹底する。また、危機管理の「さしせそ」を周知徹底し、「最悪を想定し、慎重に、素早く、誠実に対応、組織で対応」を実践する。その他「ABCの視点」で若手教員の力量向上を図る。「ドバイス・バックアップ・コンサルティング」に注力し、準備は悲観的に、対応は楽観的に、実践する。

(2) 生徒指導記録票による指導
生活態度や授業態度が悪く教員の指導に従わなければ、担当教員が状況を生徒指導記録票(指導カード)に記入し、担任に提出する。担任は、学年主任および生徒指導主事と協議

77 月刊生徒指導2015年10月号

出典 武笠和夫の全国生徒指導実践③ 『月刊生徒指導』 二〇一五・一〇 七六、七七頁

